

令和5年度 大府市総合教育会議 会議要点録

日時	令和5年9月25日(月)午後2時から午後3時14分まで
場所	大府市役所 委員会室1
出席者	市長、教育長、竹中教育長職務代理者、浅井教育委員、西村教育委員、富田教育委員、近藤教育委員
企画政策部	企画政策部長、企画広報課長、企画政策係長
教育委員会	教育部長、学校教育課長、学校総務係長、学校総務係主任
オブザーバー	山内副市長
公開の可否	一部非公開
傍聴者数	0人
議題	報告事項 子どもの運動文化活動支援事業及び中学校部活動地域移行について 協議・調整事項 総合的な長期欠席者支援について

開会

1 あいさつ

市長	<ul style="list-style-type: none">・今年度は新型コロナウイルス感染症の規制も緩和され、小中学生については、国内外の訪問事業が実施でき、有意義な交流ができています。・市では、新たな少子化対策として、ライフステージに応じた子育て支援ができるよう「おおぶこども輝く未来応援八策」を策定し、その1つとして、財政的負担の大きい中学生の学校給食費を今年度の3学期から無償化していく。・本日の報告事項及び協議事項について、忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none">・現在の教育課題として、長期欠席者支援、子どもの体力向上、部活動の地域移行及び小学生の運動文化活動を大きな柱として考えている。・教員のなり手が減っており、働き方改革を一層進めながら、子どもの育ちに関わる部分をどう充実させていくのか、御意見をお聞きしながら進めていきたい。

2 報告事項 子どもの運動文化活動支援事業及び中学校部活動地域移行について

学校総務 係主任 《事務局から内容について説明》

教育長 ・ご質問などお聞かせ願いたい。

浅井委員 ・部活動の地域移行について、地域で実施しているスポーツクラブとタイアップするような形式ではないと考えれば良いか。何かしら関連してくるのか。
・全員が原則部活動に参加するというシステムは地域移行後も維持していくのか、又は個人に任せるのか。

学校総務
係主任

- ・地域のスポーツクラブに参加している生徒については、地域のスポーツクラブが市の連携クラブとなってもらうことで、様々な活動の場の1つになればと考えている。
- ・現在 90%以上の生徒が部活動に参加しているが、地域クラブとなって学校から手が離れる休日の活動への参加については、各家庭が決めてもらえれば良いと考えている。

富田委員

- ・部活動の活動時間を18時～20時に変更するとなると、公共施設を会場とした場合、時間が遅くなるため、行き帰りをどうするのか課題になると思うので、慎重に検討いただきたい。

市長

- ・現在、市ではバイオリンの里作りを進めており、中学校の部活動には吹奏楽があるが、弦楽器がないという状況なので、教育委員会と協議をして、弦楽器のクラブを作りたいと考えている。

3 協議・調整事項 総合的な長期欠席者支援について

学校総務
係長

《事務局から内容について説明》

教育長

- ・ご質問などお聞かせ願いたい。

浅井委員

- ・中学校で長期欠席していても、成績が良い生徒がいた場合、高校受験で不利にならないようなシステムがあれば、喜ぶ生徒がいるのではないかと考える。
- ・長期欠席の要因として、「無気力、不安」が一番多いとのことだが、生活リズムの乱れが結びついているように感じるため、規則正しい生活習慣を徹底させることが効果的ではないかと考える。

教育長

- ・長期欠席者の高校受験に関しては長期欠席者用の枠があるため、公立については、かなり間口が広がっている。

竹中委員

- ・レインボーハウスの様子を把握できていないので、どのようなことが行われていて、子どもたちがどのように生活しているのか、富田委員に伺いたい。

富田委員

- ・1年半レインボーハウスで指導していたが、午前中は勉強をし、午後は自由に過ごしたり、週に1・2日は体育館で運動をしていた。
- ・指導者として在籍していた当時から、レインボーハウスでは、子ども自身で考えた計画に従って進めていく中で、指導者が助言を与えるシステムが良いのではと感じていた。
- ・大府市のこれからの事業の流れを見ると、レインボーハウスと第二教育支援センターを完全な校外のフリースクールとしても良いのではないかと、教育支援センターの在り方を考えていくとさらに成果が上がっていくのではないかと考える。
- ・教育支援センターの通所先をJRの線路東西で分けることに関しては、同じ学校の子どもと登下校時に鉢合わせることに抵抗を感じる利用者もいたことから、選択できる方法等も検討いただきたい。

- 竹中委員 ・教育支援センターを増やしていくことも良いと思うが、施設の在り方について追及されると良いと考える。
- 富田委員 ・当時は学校や学級への復帰が1番の目標であったが、現在はそれだけが目標ではなく、自己肯定感を高めることや社会的な生活を営めるようにするための力を育てることも目標になってきているので、今後大いに期待できると感じている。
- 西村委員 ・保護者の立場から見ると、親子の関わり方が長期欠席の要因の1つとしてある中で、まだまだ支援が必要であると感じている。
・レインボーハウスのことを知らない保護者も多いため、大府市の長期欠席者への支援に関する取組を周知できると良いと考える。
- 教育長 ・総合的な長期欠席者への支援については、多くの方に周知できるよう発表していくことを考えている。
- 近藤委員 ・授業のライブ配信について、現在の希望制では申し出者にとって負担となるため、学校に通うことができない子どものために、常に見ることができる環境が整えられているのも良いのではないかと考える。
- 市長 ・総合的な長期欠席者への支援については、取りまとめた上、しかるべき時期に発表し、事業化していきたいと考えている。
・現状、長期欠席者の状況は様々であるため、多くの事業内容を準備し、個々にあった方法を選択してもらうのが良いと考えている。
・市民団体との連携を進めるとともに、経験者による相談や講演を実施することも検討していきたいと考えている。